

施工段階		屋上工事		5	設備工事：	シート番号 5-3
電気	空調	衛生	その他		防振対策検討	
○	○	○	—			

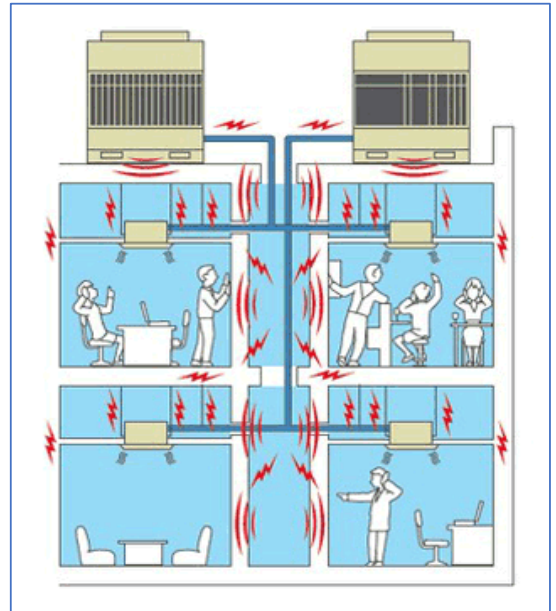
ポイント

■設備機器の防振対策

- ・使用場所、使用機器の特性などにより適切な防振対策を行う必要があります。
- ・設備機器から発せられる振動が、壁・床・天井に伝わり、居室内への騒音となります。
設備機器を防振ゴムやスプリング、防振吊具等で支持し建物に振動を伝えないようにする必要があります。
- ・具体的に設備機器メーカーと適切な防振対策を行います。

(参考) 防振対策対応表

種別		固有振動数 rpm	防振材料	
機器	1,200rpm以上の回転数の機器	連続運転する機器	rpm×1/2	ゴム
		間けつ運転する機器	600	ゴム
		必要に応じて運転する機器		
	1,200～850rpmの回転数の機器		rpm×1/2	ゴム
	850～400rpmの回転数の機器	柔構造の建物の地上階・その他特に指示のある機器	rpm×1/2	スプリング
		上記以外の機器	360	ゴム
	400rpm以下の回転数の機器	柔構造の建物の地上階・その他特に指示のある機器	rpm×1/2	スプリング
上記以外で動力5.5kW以上の機器		rpm×1/1.5	スプリング	
上記以外で動力5.5kW未満の機器		600	ゴム	
配管		600	ゴム	
ダクト		600	ゴム	



先輩アドバイス

- ・設備機器の振動対策はエアコンやポンプ、チラーといった本体の防振だけでは万全とはいえません。配管やダクトなどは振動する機械に接続されており、機械の振動を広く伝える媒体になっています。また、配管やダクトそれ自体も脈動などの振動を発生する加振源となるため、設備機器本体のみでなく、総合的な防振対策が必要です。

チェック項目

- 適切な防振対策が行われていますか。
- 特別な対策が必要な室はありませんか。

失敗すると...

- ・床への振動伝播により、建物内だけでなく近隣への騒音などクレームにつながります。

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	-	-	○	-	-	-	-	○	○
備考	参考文献：						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：倉敷化工(株)						改訂	2023年3月1日	